

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. C-24

部門名： 地域とともにある学校実践部門	エントリー名：和歌山県立みくまの支援学校（平成30年時は和歌山県立和歌山さくら支援学校） 大沢 共基 （平成30年第4回中堅教員研修）
活動名： 主タイトル 地域と連動した学校作り 副タイトル 学校運営協議会の取り組みを通して	
<b>解決すべき課題：障害のある子どもたちが社会の中で「キラキラと輝く人になる」ための地域との連携！</b> 特別支援学校では小学部から高等部へと12年間の系統性を確保しつつ、高等部卒業後の進路決定に向けて現場実習や職場見学、作業学習やキャリア教育など様々な活動に取り組んでいる。しかし、軽度の知的障害や発達障害の特性を示す生徒の中には、在学中に問題行動を起こしたり、仕事先で離職につながったりするケースも多い。今後は、特別支援学校だけでなく地域の一般の学校でも同様な課題が出てくることも予想され、学校の取り組みだけで支援の継続は困難になってくる。そこで <b>中堅教員研修で学んだ地域連携と学校組織マネジメント等の講義を参考</b> にして支援を要する児童生徒の実態を知っていただき、 <b>学校の教育活動の改善や方向性、地域と連携した包括的な支援や体験の場</b> を具体的に検討するためにこのテーマを設定した。	
<b>目標・方針：障害のある子どもたちの社会参加に向けた学校と地域・企業との情報とビジョンの共有</b> ①地域社会や企業等進路先の方に課題のある <b>児童生徒の実態</b> を知っていただく場を設定 ②学校だけの視点だけでなく、 <b>企業や地域の方々と連携した取り組み</b> を検討 ※学校以外での体験の場の確保と子どもたちが地域社会で様々な力を発揮できる活動の設定 ③学校で取り組んでいる教育活動（授業等）の改善のためのアドバイスをいただき、 <b>方向性を見直す</b> ※授業見学や児童生徒との交流を通して社会参加に向けて必要な力などについて <b>意見交換</b> をおこなう	
<b>活動内容：障害のある子どもたちの社会参加に向けて学校と地域・企業で交流</b> ①特別支援学校で取り組んでいる活動の紹介、社会参加に向けて必要な力などについて意見交換【写真①】 ②企業や地域社会と学校が <b>一体となって取り組める活動</b> について協議【写真②】 ③中学部、高等部の作業学習の <b>授業を見学</b> していただき、生徒の作業製品の販路拡大や地域社会への発信について検討。授業内容改善のための <b>アドバイスや助言</b> をいただくアンケートの実施【写真③、④】 ④特別支援学校の知的障害や発達障害の特性を示す生徒の社会参加のために、 <b>生徒と学校運営協議会メンバー等との座談会</b> の開催【写真⑤】	
<b>活動の成果：学校だけでは気付かなかった視点や新たな発想が生まれ、児童生徒の経験の場が広がった</b> ①障害のある子どもたちが <b>社会参加に向けて必要な力や課題</b> が明確になった。（コミュニケーション力、基本的な生活習慣、チャレンジ精神、仕事に対する考え、自己理解）【資料①】 ②授業見学を契機に「作業学習」「職業」等の <b>授業改善や評価の視点</b> 、生徒の <b>作業製品の販路拡大、地域社会や企業での体験学習</b> につながった。【資料②】 ③障害のある児童生徒の社会参加のために学校運営協議会メンバー等と座談会をおこなった。その中で、子どもたちが将来に関心を持ち、 <b>自分の進路に向き合う契機</b> となった。【資料③】 ④学校運営協議会の話し合いの中で、本校生徒が参加している「和歌山県障害者技能競技大会」の取り組みに際し、「喫茶サービス」の競技に参加する時は、 <b>宿泊施設総支配人が練習に協力（新たな取り組み）</b> していただけることになった。	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）：中堅教員研修講義（学校組織マネジメント、地域の教育活性化とスクールリーダー）の研修を参考にすることで課題が明確になり、運営・協議がスムーズにおこなえた。</b> ①講義の「勤務校と学校」の連携・協働の現状整理」演習シートを参考にし、スムーズな意見交換ができた。 ②地域・企業の方々と共に、子どもの <b>社会自立を目指す新たな評価規準の必要性</b> を確認できた。 ③特別支援学校だけでなく、 <b>地域の中学校や高等学校でも取り組める（汎化）体験活動</b> を計画できた。 ④学校、地域、企業、保護者それぞれが対等の立場で役割を担い、 <b>ビジョンの共有</b> ができた。【資料④】	

**【写真1】**  
  
 特別支援学校の取り組みの紹介

**【写真3】**  
  
 地域や企業、学校運営協議会メンバーによる作業学習の授業見学

現状と課題の共有

↓

学校・企業と地域・企業との共同作業

↓

**【写真2】**  
  
 障害のある子どもの社会参加について協議

**【写真4】**  
  
 生徒が作った製品販売のため、企業の方との打ち合わせ

**【写真5】**  
  
 社会参加に向けて企業、学校運営協議会メンバーと生徒の座談会の開催

社会参加に向けて必要な力について（学校運営協議会で出た意見）【資料①】

- コミュニケーション力（質問、相談ができる 周りの意見が聞ける 挨拶、返事ができる 笑顔、感謝の気持ちを持つ）
- 日常生活に必要なこと（生活習慣、身だしなみ 体調管理と基礎体力 余暇を楽しむ力）
- チャレンジ精神（あきらめない気持ち 苦手なことにも支援を受けて挑戦できる 失敗から学ぶ間違いを次に活かす）
- 仕事に対する考え「働く」ことの意味、「いきがい」の理解 5年後、10年後の自分の姿を想像できるか

「作業学習」「職業」の授業改善について（学校運営協議会で出た意見）【資料②】

- 作業学習にのぞむ意識（「働く」ことの意義について理解できているか。生徒の能力を伸ばす目標は明確か）
- 作業学習の内容（物作りの評価規準はあるか、検定制度の導入、生徒が自発的に取り組める作業内容の設定、自動販売機の運営をする授業は子どもたちの将来のための本物の授業だと感じた）
- 作業製品について（製品であるという意識、消費者の欲しい商品、一般市場でも販売できる品物や販路があるか）
- 教師の指導について（先生の専門性が大事、活動を評価できる外部の人材の確保、適切な支援が大切）

将来や進路にむけて**生徒へのアドバイス**（学校運営協議会メンバー等と生徒との座談会で出た意見抜粋）【資料③】

- 将来、**自分がやってみたいことがあれば何でも関心を持って**調べたり、先生に聞いたりすることが大事
- 学校生活の中で自ら進んで実習に行き体験してみる。**自分に何が合うのか、やってみたいことは何なのか考える**
- 一人で生きていくことはできない、集団の中で困ったり悩んだら**相談したり、意見を聞いて自分を見つめ直す**

**【資料④】**

